

THE M **ボカシ**

2004年3月1日
No. 22



編集：EMボカシネットワーク 〒107-0052東京都港区赤坂3-16-11東海赤坂ビル4F Tel.03-5570-5262
発行：EM研究機構 〒901-2214沖縄県宜野湾市我如古2-9-2 Tel.098-890-1111
印刷：社会福祉法人きそがわ福祉会 きそがわ作業所 〒493-0007愛知県木曾川町外割田西郷西151 Tel.0586-86-3763

ボカシでつくる大きな輪 皆で広げよう幸せの輪！



仲間たちで育てたサツマイモ
美味しいな！
愛知県扶桑町・授産施設たんぽぽ

桑の木園発EM情報

島根支部 三沢 智



長浜小学校で行ったEM勉強会

知的障害者更生施設『桑の木園』は、中国山地の入口、島根県那賀郡金城町にあります。昭和四十九年の開園当初から、利用者の皆さんに、「人」としての尊厳にふさわしいサービス提供を目指し、日々の活動を行なっております。

EMを桑の木園が導入したのは、平成八年のことです。それ以降、様々な作業を通して、地域への恩返しを目標とした環境活動に取り組んできました。現在は、作業班として農耕班・園芸班・養鶏班・石

す。養鶏班では、学校給食センターの残菜をリサイクルし、EMを活用した発酵飼料作りを行なっています。また石鹼班では、環境に優しい天然石鹼作りを行なっています。EMボカシは、私が担当する通所部の作業として、EMだんご・活性液作りとともに進めています。

小学生との出会い

もたらしてくれたもの

平成十四年度には、浜田市立長浜小学校四年生の『総合的な学習の時間』の一環で授業の中でEM石鹼づくりを通じた桑の木園との交流が行われ、地域ぐるみの河川・海の浄化活動へ発展しました。

活動では、桑の木園利用者・小学生共同でEMだんごを作製し、EM活性液とともに川へ投入しました。そしてEMボカシ作り・天然石鹼作り講習会、海のゴミ拾いなどを通して、長浜小学生・保護者・近隣住民の環境に対する意識が高まり、一

過性で終わる活動にいたくない。」という考えが地域に徐々に広がりを見せていきました。

そして、今年度『EUT(エコレンジヤー 海は宝物)の会』が結成されるに至ったのです。「こどもたちにきれいな海を残したい」という想いのもと、様々な活動をしながらかれた環境を改善する取り組みを進めています。

このような活動を通して私が感じたのは、人と人との出会いが素晴らしい力を生み出すという事実でした。今後も「出会い」を大切にしながら、活動の中にも「楽しさ」を忘れず、継続して活動をしていきたいと考えています。



長浜小学校を訪れた桑の木園の石鹼づくりを説明する児童

(社会福祉法人・桑の木園 支援員)

桑の木園と長浜小学校

との交流

島根県浜田市立長浜小学校では、四年生の「総合的な学習」の一環で身近な環境問題をテーマに、EMを活用した河川や海の浄化に取り組み、一昨年から社会福祉法人いわみ福祉会「桑の木園」との交流が行われていました。(2ページ参照)

桑の木園の利用者や指導員が小学校を訪れ、EM団子やEM活性液、EMボカシ、廃食用油けんなどの講習会を開いたり、児童や保護者が桑の木園を訪れることで、EMボカシネットワークの趣旨が理解され、福祉施設が地域に開かれ、地域住民の意識も変わってきたと言います。また、桑の木園の活動を拠点に、地域ぐるみでの環境浄化の取り組みが展開されています。ここでは、児童が町内の廃油回収の経路をたどる内、桑の木園が行っている石けんづくりの到達した際の感想文の一部を紹介します。

熱田地区のはい油回しゅう

四年二組

島根県浜田市熱田町の十三町内では、はい油の回しゅうを行っています。町内にある団地には、じょうかそうという水をきれいにする機械があります。

十年ほど前までは、各家庭で使い終わった油は、はい水口からそのまま水といっしょに流していました。

しかし、油がじょうかそうにつまり、こわれてしまうおそれが出てきました。それをふせぐために熱田十三町内では、はい油集めをすることになりました。

集められたはい油は、くわの木園で石けんにされます。中田さんは(※事務局注:桑の木園利用者・石けん班担当)は、「地いきにすんでおられる方々に、はい油をはい水口に流さないよう心がけてもらうことが大切」と願って居られます。その結果として、多くのはい油を集めることができれば、より環境にいい活動が行われると思います。

※本文はスペースの関係上一部割愛しています。

| | |
|---|--------|
| 熱田地区のはい油回しゅう | |
|  | |
| 浜田市立長浜小学校 | 矢津 孝師 |
| 4年2組 | 沖本 観月 |
| | 森山 祥子 |
| | 佐々田 啓吾 |



桑の木園の廃油回収風景

「こんにちは 佐賀支部を
よろしく」

佐賀支部 山下 寛治

佐賀支部代表として皆さんの仲間に加えていただくことになりました。

私が、「甦る有明海ネットワーク」理事として、EM普及活動をしているとき、「かささぎの里」の井上さんと知り合ったことが、佐賀支部設立のきっかけとなりました。九州各県の福祉施設に呼びかけてEMボカシネットワーク活動を広めていきたいと思っておりますのでご指導の程よろしく御願いたします。



かささぎの里の仲間たちと。
左から三人目が山下さん

自分達の役割が実感できる活動！
社会福祉法人・かささぎの里

支援員 井上 和弘

かささぎの里は、知的障害を持つ仲間たちが通う通所の授産施設です。現在、授産施設に五十名、デイサービスに二十名が利用しています。

かささぎの里とEMボカシの出会い、約十年前に生協関係の人から勧められたことがきっかけです。

エコ・クリエイトグループに所属する十三人の仲間がそれぞれの適性に合った作業を協力しながら行っています。例えば仕込みは割合に軽度な四〜五人の仲間が、袋入れは中〜重度な仲間が行うというように、メンバーの役割分担がとてうまく機能しているのです。作業中はほとんど指示しなくても自主的に動くことができます。

グループのコンセプトは「健康」と「環境」で、他にもハーブ製品（ティン・バスハーブなど）や廃食油を利



「甦る有明海ネットワーク」の支援を受けてEMボカシづくりにも熱が入る。

用した純石鹼分九十四・三%のリースイクル石鹼などを製造していますので、次はEM入りの石けんにチャレンジしたいと考えています。

常日頃から、自分達が作っているものが販売されて、どのように使われているかを説明しています。とても意義のある仕事に関わっているという自信を持つことが、仲間達の確かな自信につながると考えるからです。

EMボカシネットワークに加入したことで仲間達の、環境や生産に対する意識に変化が起きていることを感じます。今後、有明海のEM団子投入作業等にも関わっていきたいと思っております。

新潟支部代表を

引き継ぐにあたって



新潟支部

島本ひろみ

この度、新潟支部代表交代にあたり、私がこの任を引き継ぐことになりました。

私はこれまで十日町EM研究会の代表としてEMの普及活動を推進してきましたが、生ごみリサイクル活動を通して福祉施設とのつながりが懸案でした。新潟支部代表であったワークセンター曾野木の元施設長だった嘉向さんとの出会いは、私にとって大変心強いものでしたが残念ながら諸事情で休業されることになり、今回の交代となった訳です。幸い、新潟市内や近隣にEMボカシづくりに取り組んでいる作業所や施設があり、また利用してく

ださる地域の方々もおられるので、これまで通り皆さんと一緒に支部活動を推進していきたいと思っております。

家庭の生ごみの堆肥化から始まった私とEMとの出会いが、このようにEMボカシネットワークの支部をお世話させていただくことになり、ボランティアとして皆さまの役に立てば幸いです。

情報交換で

品質向上を目指す

十日町市は県南にあつて、新潟市まで車で約2時間の距離ですが、日本の「ふるき良き故郷」そのままのような田舎町です。純朴な人と穏やかな自然(冬は豪雪地)は、人の心に優しさを育みます。

昨年8月、比嘉節子名誉会長が十日町を訪れた際、隣町川西町にある福祉施設「なかまの家」に立ち寄ってください、EMボカシを見て、

「よいボカシができていますね」と評価し、励ましてくれました。「なかまの家」は、未だEMボカシネットワークに加入していませんが、担当者が熱心にEMボカシづくりに取り組んでいて、品質のよいEMボカシづくりの目標をこの時の交流から得たようでした。十日町EM研究会でも販売に協力していますが、支部として一層の交流と情報交換を行い、EMボカシの品質向上と施設間の連帯感を育てていきたいと思っています。



「なかまの家」の利用者と支援グループの皆さんと名誉会長

EMフェスタ2003 有用微生物応用研究会 第20回記念発表大会



熱意と希望に満ちた発表報告が交換された分科会とパネル発表

十一月十五日(土)、十六日(日)の二日間、沖縄コンベンションセンターにて、「EMフェスタ2003 有用微生物応用研究会第20回記念発表大会」が開催されました。今大会のメインテーマは「沖縄から世界へ 世界から沖縄へ」。沖縄から発信されたEM技術が現在では世界中に普及し、広がりを見せています。世界中のEMの活用事例報

告や最新技術の情報もあり、また世界各国のEM商品が色々と並ぶEM国際ビジネスフェアもありました。

福祉専門分科会では、「地域に支えられ、地域を活性化する」をテーマに精神障害者授産施設ひかり授産施設(北海道)の佐治リエ子さん、身体障害者小規模授産施設麦の会第二作業所(大阪府)の泉谷一郎さん、久保宗一さん、アースウオッチング堺の鮎川佳寿子さん(代理発表：成本清志さん)、社会福祉法人泉蓮華会(愛媛県)常務理事の三好達也さんの発表とデイスカッションがありました。

「EM人脈による施設づくり」

ひかり授産施設では開設時に、町内会の方々の協力のもと、ビニールハウスの設置や土作りが行われました。施設内に「あさかげ生活支援センター」を併設しているため、町内会で施設を利用したり、職員

が町内会の役員に入れていただくという親密な関係を築くことができているとのこと。今後の目標は、生ごみ処理にEMボカシ利用の啓発を活発化し、行政にも働きかけたいということです。

「発見・体験・ほっとけん」

麦の会第二作業所の発表には、環境浄化ボランティアグループのアースウオッチング堺の方も一緒に参加しました。この関係はアースウオッチング堺がEMボカシを顧客となつて買ってくれるということで購入したのが始まりだったとのこと。夏期には自主製品であるケーキの売上が激減するが、EMボカシの導入でその穴を埋めるだけの収入を得ることができ、また多くの人たちと知り合うことができたと発表。

「福祉施設から地域へEM発信！」

社会福祉法人和泉蓮華会から、

知的障害者更生施設「希望ヶ丘」と、授産施設「いきいきプチファーム」でのEM活用について発表がありました。

希望ヶ丘では、農作業で収穫した作物は、主に高齢者施設や障害者施設の利用者、保育園の園児の収穫体験や施設給食に使用されるため、体に優しい有機栽培をEMを用いて行っています。地域とのつながりは、松山城の堀の浄化活動に参加。EM利用者には施設のEM活性液を無償で提供しているとのこと。今後は障害者施設こそがリーダーシップをとって「地域づくり・街づくり」を実践していければとの発表がありました。

EMボカシネットワークの

ブースを出しました！

展示棟で当日併催されたEM国際ビジネスフェアでは、施設が作ったEMボカシやEM関連商品（石けんなど）を販売し、来場者の方々か

らも大変好評でした。



ブースには大勢の人が訪れてくれました

EM資材無償提供について

EMボカシネットワークは発足当初より加盟団体へは、EM関連企業からEMボカシ（I型生ごみ処理用）づくりに必要なEM1号とEM-Xセラミックスパウダー等の資材を無償で提供していたいております。

この無償提供は、あくまでも自立への支援であり、経済的自立を目指して皆様が努力されていることは言うまでもありません。

EMボ・ネットは今年で十周年を迎えます。EMボカシづくりを通して施設・作業所が地域の環境浄化活動の拠点になり活躍するなど、十年の歩みは多くの成果をもたらしています。これらは皆様の努力の賜物です。

ただその中で、当初の約束ごとであった「生ごみ処理用EMボカシづくりの為の資材提供」という枠を超えた部分で無償提供を受けるケースが出てきました。例えば、提供資材を「大量にEM活性液を作って販売する」為に使用しているなどです。

これを機に無償提供について皆様がどのようにお考えになられているかを聞かせていただきたく、事務局より各支部へアンケート調査を行いました。多くの方からの御回答をいただき誠に感謝しております。皆様のご意見をもとに、EM関連企業と今後の無償提供のあり方について慎重に検討させていただく所存です。今後も引き続き皆様からの提案・提言をお待ちしておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。（本部事務局より）

EMパワーでエコクラブとの

良い関係

中部支部 社本 則子

私たち社会福祉法人ふそう福祉会「たんぽぽ」は、平成十三年四月知的障害者通所授産施設として発足しました。その際、自主作業としてEMボカシづくりを導入しました。EMボカシづくりは、本格的製造は扶桑町エコクラブ「ひまわりの会」と交流をもった一昨年からです。

「ひまわりの会」は、生ごみ減量を目的に町の委託を受けて、十年前に誕生。現在はEMボカシ活用を生ごみリサイクルを中心に環境全体の活動を展開しており、たんぽぽが作ったEMボカシの販路確保も協力してくださり、町環境課の窓口では週に六十袋（600g入り）が販売されています。

ガーデニング班でEM野菜作り



野菜づくりには欠かせない土づくりは、EM生ごみ発酵肥料で

「たんぽぽ」では昨年四月、新しくガーデニング班を結成、EMボカシ生ごみ発酵肥料を畑に活用した無農薬野菜作りに挑戦しました。

あまり肥料を必要としない落花生、サツマイモ、里芋を選びましたが、約三十坪の畑の土づくりに投入するEM生ごみ発酵肥料の必要量は、一平方メートル当り1.5キロ相当で、厨房や保護者だけでなく地域の保育園の協力もいただきました。みんなで汗をかきながらの土づくりや移植、草取りなど大変でしたが、「自分たちで作ったんだ！」という収穫の喜びと自信は、これを上回りました。

昨年十一月二十二日、たんぽぽを会場に十七施設・作業所などを

ら約六十人が参加して中部支部学習会が行われ、たんぽぽからEM野菜作りの取り組みを発表させていただきました。サツマイモの試食もしていただき、皆さんから「美味し」と褒められ、作業班一同満面の笑みがこぼれたことは言うまでもありません。これを機に、まず自分たちが作っているEMボカシを自分たちが使い、様々な方法で活用し、地域の多くの方々にも使っていたらいい、「たんぽぽのボカシは良いね」と言っていただけのように励んでいきたいと思えます。

（社会福祉法人・たんぽぽ

支援員）



作業の疲れも収穫の喜びには代えられない。芋ほりは全員で

EMプリン石鹼(ジェル状)の作り方

食用廃油を利用した米のとぎ汁EM発酵液やEM-Xセラミックスパウダーを活用すると、作る過程で発生する刺激臭が少なく、出来上がりの石鹼は「環境にも肌にも優しい」と言われています。

今回は神奈川県川崎市「EMゆりの会」の皆さんの作り方をご紹介します。

「EMゆりの会」では、鹼化促進として天然アルコールを使っているのので、作り方もあわせてご紹介します。

天然アルコールの作り方

<材料>

・ご飯 どんぶり1杯分 ・EM1号 50cc ・水(汲み置き水) 2L

①大きめのボールに、ご飯とEM1号50cc、水2Lを入れ、ジョウゴを使ってペットボトルに入れ密閉する。

②ペットボトルを温かいところに置いて発酵を待つ。最低でも1ヶ月、理想的には半年~1年間寝かせたほうがよく、酸味とアルコール臭がしてきたら出来上がり。

天然アルコール



EMプリン石鹼の作り方

<材料>

・天然アルコール2L、EM-Xセラミックスパウダー30g
苛性ソーダ450g、廃油2.7L、米のとぎ汁EM発酵液10L

①30Lのポリバケツに、約2Lの天然アルコールとEMセラミックスパウダーを入れる。

②苛性ソーダ450gをポリバケツに入れて、棒でかき混ぜ苛性ソーダをしっかり溶かす。

※この時発生した煙を吸い込まないように気をつける。

③容器が熱くなり、苛性ソーダが溶けたら廃油2.7Lを入れ、攪拌機(※)で20分程よくかき混ぜ、その後3日間置く。この作業を入念にするほど良質の石鹼になる。※攪拌機がない場合は、棒でよく攪拌し、毎日1回はよくかき混ぜる。3日~4日間で固まる。

④③によく沸騰させた米のとぎ汁EM発酵液9Lを入れ、少し攪拌した後沸騰させていない発酵液1Lを入れる。

⑤攪拌機で20分程よく混ぜる。泡が出て、トロツとしてきたら分離しなくなる。③ですっきり混ぜておかないとこの段階で分離する。

⑥1ヶ月間置いたらでき上がり。

・水で4倍に薄め液体石鹼として利用。スプレーヤーやペットボトルに入れ使いやすくする。

・使用例洗濯には水で4倍に希釈したEMプリン石鹼を、水30Lに対し160cc程度入れ使用。

※攪拌機を利用することで石鹼にムラがなくなり、なめらかになります。これにより工程⑤の攪拌時間が短く楽に行えます。

EMプリン石鹼



良質の石鹼を作るには！

・廃油の前処理として、廃油に直接EM活性液を0.5%添加し攪拌後、1ヶ月以上置きます。

EM活性液を添加した廃油(左)は、無添加の廃油(右)と比べ不純物が沈殿し、廃油の透明度が増し良質の廃油になります。その上澄みの廃油だけを石鹼作りに利用します。



EM添加(左)と無添加(右)との比較



攪拌機でプリン石鹼を作っているEMゆりの会の皆さん。

交友深めた県外視察研修

沖繩支部 天願なお子

九月三十日から二日間に渡って、茨城県取手市にある「心身障害者福祉センター取手市立つつじ園（赤坂洋美施設長）」をグリーンホームのEMボカシ製造担当支援員の伊佐瞳さんと研修視察をしました。



つつじ園は十八歳以上の知的障害者の方々が利用できる通所施設で、現在五十二人が利用しています。園内で作ったEMボカシは、取手市が支援している「NPO緑の会（恒川敏江理事長）」の「生ごみ資源化モデル事業」に活用されています。そのため月に約一トン！と言う大量のEMボカシを生産します。ジャスコなどの大手スーパーマーケットにも卸しているのです、生産が間に合わないほどだとのこと。EMボカシは、十分発酵させた後に、ビニールハウスで乾燥させます。しっかりと乾燥させると、袋詰めした



つつじ園での交流会。中央に立っているのは赤坂施設長

後に二次発酵する心配もありません。利用者さんが楽しく取り組み、支援員の手間も省かれ、さらに大量生産・販売を実現させるためには、無理して頑張るより、工夫して効率よく、と考えたのが今の方法だとのこと。伊佐さんは、「EMボカシの乾燥方法や、施設と地域との関わり方など、学ぶことが多く、有意義な県外視察でした」と話していました。



四国支部交流会

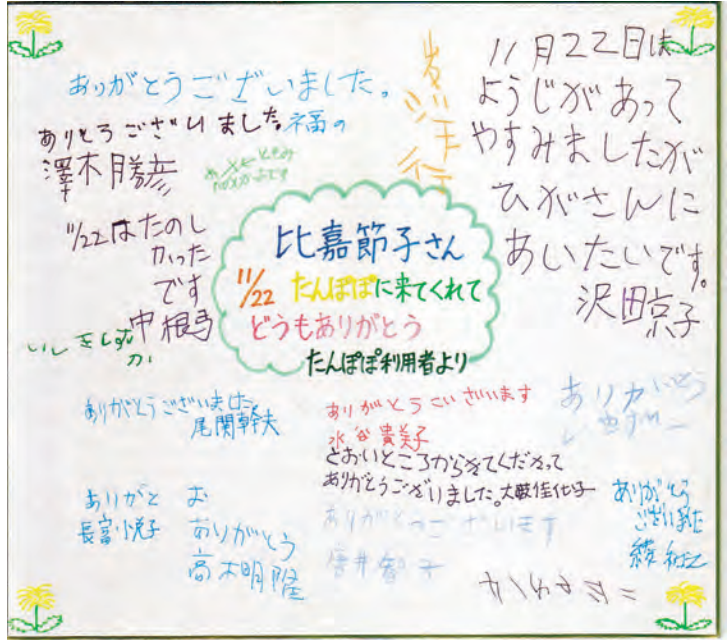
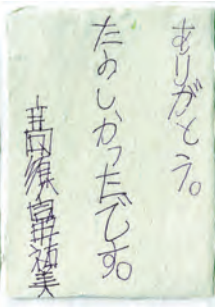
十月二十四日、徳島県徳島市にある社会福祉法人「あゆみ園」で四国支部交流会が行われました。毎年四県持ち回りで交流会を行っている四国支部ですが、この日は約四十人の関係者が集まり、「より良いEMボカシの作り方、使い方」講座やEMボカシ品質検討会で盛り上がりしました。

会場になった「あゆみ園」は、園内に「地域交流センター」が併設され、行政からも地域の情報発信・交流の場として期待されており、周辺住民の関心も高いようです。

本部事務局から

二十一号で新潟支部は、「十日町のEM研究会会長・島本ひろみさんが世話役となり、支部業務は北陸EM普及協会にて代行する」とお知らせ致しましたが、島本さんが支部業務も含めて新潟支部代表となりました。なお、連絡先は巻末の支部一覧表をご確認下さい。

仲間の声



「りよで
仲間と
自分の
活動に
支えら
れて、
幅も大
きく、
は、い
ろいろ
な苦勞
もあつ
たこと
と思ひ
ます。けれど、
その甲斐あつてこうしてめで
たく十周年を迎えることができ
ました。
これまでの十年間を振り返ると共に、これからの十年間を見据えて、より一層事務局も努力致しますので、ボ・ネットをより盛り上げていくためにも、皆様からのご意見、ご指導をお願いいたしますと共に挨拶に代えさせて頂きます。」

編集後記

暦も変わり、いよいよEMボカシネットワーク十周年、節目の年となりました。

これまで、皆様のご協力に支えられてボ・ネットの活動は充実し、その幅も大きく広がってきました。その間には、いろいろな苦勞もあつたことと思ひます。けれど、その甲斐あつてこうしてめでたく十周年を迎えることができました。

これまでの十年間を振り返ると共に、これからの十年間を見据えて、より一層事務局も努力致しますので、ボ・ネットをより盛り上げていくためにも、皆様からのご意見、ご指導をお願いいたしますと共に挨拶に代えさせていただきます。

瀬古